

# OB会 だより



## 定年後の人生・・・

新しい道に挑戦し、輝いている仲間がたくさんいる

そのひとり 小嶋 美智子 さん 「キノコに魅せられて」の挑戦だ。

小学生のころ、母によくキノコ狩りに連れて行ってもらった思い出がある。いまから18年前、偶然見つけたのがコープカルチャー「キノコ山菜教室」。まだ現役だったこともあり、月2回の講座も半分くらいの参加だったが、休日の「キノコ観察会」にはできるだけ参加し、定年後「鑑定士養成講座」にも参加した。

キノコは原則1年に1回発生するが変幻自在。昨年習ったキノコが1年後に必ず出てくるとは限らない。生える場所、季節、気象状況等々にまどわされっぱなし。でも探しあてた時の喜びは格別だ。さらに毒キノコへと変貌するものもある。

今、福島原発の事故以来放射能汚染スポットとして、富士山、秩父、軽井沢、赤城大沼等が報道され、気持ちもしぼんでいる。

認知症になった母がキノコ狩りで採ったキノコを持って帰ると、嬉しそうに新聞紙に広げて「よく採れたね」と、キノコごとに分けてくれ、会話が成立したのがうれしかった。

## 新入会員紹介

よろしくお願い致します



### ♪♪ 赤坂 京子 さん

8月1日定年を迎え、36年勤めた医療生協を退職しました。多くの先輩方、同僚、友人等に助けられ、ここまで来たことに感謝、感謝です。OB会の方々、ありがとうございました。現在は、今まで後で後でと思っていたことを少しずつ手がけています。大好きな美術鑑賞にも度々出かけています。福島の「若冲が来てくれました」展にも行ってきました。命あふれる絵画に感激でしたが、美術館敷地内で放射能の高い侵入禁止の黄色のテープや車中で聞いた放射能測定値の地元報道には、放射能汚染の現地で暮らす人々に思いをさせずにはられませんでした。これからは、原発廃止にむけ、学び行動を起こしていかなければとの思いを強くしました。

今後は、一息ついたら又、細く長く薬剤師として働き続けられたらと思っています。OB会の活動にも参加させていただくことを楽しみにしています。よろしくお願い致します。

【赤坂さんは薬剤師として熊谷・行田・春日部で勤務し、最後の職場は熊谷でした】

私の近況・  
会員通信

OB会の皆様  
ありがとうございました

馬場 久美子

5月25日に 夫 文三 が亡くなりました。

通夜、告別式に肥田先生をはじめ多数のOB会の皆様に参加していただき、本当にありがとうございました。私も皆様に久しぶりにお会いして力をいただきました。夫も心残りはありません。最後まで生きるために頑張っていました。

私も家族も夫がいないのだという実感がわきません。子どもたちと「まだ入院しているようだね」と話しています。

OB会だより115号に、文三を偲ぶ特集を載せていただき感謝しております。肥田先生、小野さん、仲村さん、小川さん、企画に携わってくださった皆様、ありがとうございました。夫もOB会だよりをいつも病床の傍らに置き、大切に読んでおりました。生きる力をOB会だよりからいただいていた。

私もこれからOB会に参加させていただきたいと思っています。よろしくお願い致します。

\*\*\*伊藤 英子

夫は3年くらい前から、あちこちのマラソン大会（国内）に出ています。

その都度、荷物がどうのこうのと言って私がついていくことを強要

します。寒い中（たいてい寒い時期が多い）をフルマラソンの時は4～5時間、ハーフの

最初で最後の  
チャレンジ？

時は2～3時間、震えながら待ってはいなくてはなりません。何回かついて行っているうちに「5kmくらいなら私でも走れるんじゃないか」と妄想を抱くようになっちゃいました。

5月12日、「鹿沼さつきマラソン大会」というのに初めてエントリーしてみました。5km・40歳以上の部です。（女子の60歳以上の部はなかった）まわりは若い人やスリムな人たちで、どんどん追い越されましたが、どうにか完走できました。暑くもなく、寒くもないちょうど良い気候で、タイムは38分14秒。最初で最後かもしれませんが、初チャレンジでした。



### 老人よ、大志を抱け

山本 康男

\*7月6日

現代のベートーヴェンと言われる全聾の作曲家 佐村河内守の「交響曲第1番HIROSHIMA」演奏会へ出かけました。80分に及ぶ演奏が終わると、満員の客席から熱烈な拍手が沸き起こりました。本人が舞台上上がるとさらに会場は参加者全員が総立ち、拍手や歓声は大きくなり「良かったね〜!」「すごい音楽だね〜!」の声・声……。

彼は、広島原爆被爆2世で、ある時期から全聾となり、重い症状と闘いながら作曲を続けている。彼の生きざまを知って演奏を聴くとよりいっそう感動すると思います。

\*7月24日

熊谷の夏の風物詩、「松竹大歌舞伎」へ72名の参加で熊谷会館へ。今年は市川亀治郎改め四代目市川猿之助の登場です。「毛抜き」「口上」「義経千本桜」十分に楽しみました。

\*8月16日

恒例の北海道旅行、今年は函館から始まり～千歳～夕張～知床～網走～札幌をまわり、苫小牧からフェリーで八戸へ。これから東北の被災地をまわって帰ります。

この流れが奔流と  
なることを願って

早田 繁



都議選で重い扉をこじ開けた。そしたら参院選で水が流れ始めました。この流れがやがて奔流となることを願ってやみません。行田での選挙は今回が最後になりました。

“終わり良ければすべて良し” そんな心境です。

選挙が終わるのを待っていたかのように、東電は汚染水が海に流れ出ていることを公表しました。このことは地下水と原子炉が通じていることを物語っています。メルトダウンした核燃料が、コンクリートの床を突き破って穴をあけ、現在土中にあるのではないかと

思ってしまう。そうだとすれば、汚染水の海洋流出は際限なく広がり、かつ永続することになってしまいます。何としても止めねばなりません。9月半ばには、すべての原発が停止します。再稼働なぞ考えず、安全安心な再生可能エネルギーに一大転換してほしいと思っています。

郵便局はとうとうアフラックに占領されてしまいました。これが郵政民営化の正体でしょうか。TPPを見るようです。

♪♪♪ 富田 厚子

メールに  
励まされました

健診で大腸癌が見つかり開腹手術をしました。

癌そのものは0期で心配なかったのですが、入院中仲間からのメールに励まされ、弱気にならず無事退院できました。「いつものような生活ができる」これってありがたいことですね。元気をもらったメールのやりとりをちょっと紹介します。いまはこんな時代なんですね。 (○は私 ●は仲間達)

○ 入院・手術予定日も決まってホッとです。待ち人待つならいいがと思いつつ、アレコレと巡らす日々。私は痛くもかゆくもないのに。痛いのがイタイの飛んでけ!

○ おはよう。これから戦場に行くような気分です。

● 今が正念場だよ。頑張れ!厚子! 笑い話になる日も、温泉に行く日も、みんなで待ってるよ。2~3日が辛抱だよ。考えてみたけど胃じゃなくてよかった・・・

● いよいよ悪との決別だね。うーと言ったらもうベットの上、夫が「厚子」とニッコリ呼んでいる状況だよ。しばらくは自分であっても他人に動かされているようなもの。おまかせして頑張れ! ゆっくりと。

● 手術、無事終わってよかった。日々回復されている様子、私ごとのようにうれしいです・・・頑張ってるね。退院後は快気祝いだ。

OB会の旅

福島を訪ねる

今年のOB会旅行は、7月27日~28日、福島を訪ねました。第一日は、放射能汚染で町全体が避難指示により無人と化した浪江町へ。夜は佐藤テル子さんから“新相馬節”を習ったり、おいしいごちそうに舌づつみ。

二日目は、一千有余年の歴史を経て、今なおいきづく伝統の祭り、「相馬野馬追」を見学、元気をもらい、楽しみました。



7月27日（土） 南相馬市、浪江町を訪問

海岸近くは、漁船や車、瓦礫の山、折れ曲がった電柱が震災後のまま放置されていました。



無人の街、放置されたままの家屋

かつては、一面の美しい稲のみどりにおおわれていたであろう田は、セイタカアワダチソウと雑草が生い茂っていました。街に入ると、地震で崩れた家屋はそのまま、地震や津波に負けないで残っている家も沢山ありました。しかし、誰も住むことが出来ない家の庭は雑草に覆われていました。テレビや雑誌で見て予想はしていましたが、現実に目の前に見ると、言葉を失いました。除染をして本当に住めるようになるのでしょうか。

気の遠くなるような年月が必要とされるに違いありません。避難生活を余儀なくされている方々の

事を考えると、暗澹たる気持ちになり、夜床の中で、見てきた景色が浮かんで来てなかなか眠れませんでした。

7月28日（日）相馬 野馬追い祭り

1000年も続いてきた重要無形民俗文化財だけあって、見ごたえある迫力満点の祭りでした。この地域の、沢山の人や馬が、震災にあったでしょう。でも、負けないで頑張ろうという気持ちが、祭りをより力強いものにしていました。馬に乗って疾走する若者の一生懸命な姿は、大勢の観客を励ましているようでした。私は前日の被災地を見て心が折れそうになりましたが、野馬追いを見て、少し元気になりました。私たちも何かしなくては、自分に出来る事は何か、そんな事を考えながら帰ってきました。



### 初めての旅行に参加して

岡部 和子



OB会の福島視察旅行、相馬野馬追の見学に参加させて浪江町に。4月から許可証を取れば浪江町に入ることができるようになりました。

雨模様の中、除去されたビニール袋があちこちに積んであるところを走りながら、街中に入ってくると、家はあるが中はメチャメチャで人が全くいない異様な雰囲気でした。本当に心が痛み、無責任な



旅館の窓から松川浦湾を望む

原発計画に怒りを感じました。

「原発・3.11の映像」写真集を見ましたが、現地を実際に見るとということが如何に貴重か、体で原発の恐ろしさを知ることができ、このような機会があり感謝しております。宮城にいる親戚も石巻で命を落とすところだったり、勤務先で施設入所者を無事助けたり体験を、神奈川で語る機会があり、私も聴きにいきました。今度の旅行でその内容が一層深まりました。この時の様子を三枚の絵に描き、埼玉の平和美術展に出展しました。

二日目は、相馬野馬追を見学し感激、歴史的な行事をすることにより、みんなが少しでも元気になれたらと願うばかりでした。

この夏の旅、有意義でした。これからの日本を生きる子どもたちに何ができるかを考える旅でもありました。ありがとうございました。



浪江町の常磐線踏切。電車は走らず雑草が

## 福島への旅



寺島 萬里子

7月末の2日間、「福島への旅」に参加した。一行24名。

バスは二本松から右折し浪江町に入る。放射能汚染で全町避難を指示されたこの町は全くの無人。住宅は整然と並び、今にも中から人が出てきそうだが。犬、猫の姿も見え

ず、パトカーが目につく。浪江を出ると南相馬。風景は一変し、地震・津波の被害が眼前に現れる。崩壊した建物、土台だけ残された津波のあと。農地だったのであろう野原に流されてきた自転車・自動車が散乱しており、船までも居座っている。被害をまぬがれた町の中には仮設住宅が並び、マッチ箱のようなという形容そのままに小さく貧弱。寒さ、暑さがあるで凌げるのか。あの狭さで暮らせるのか不安になる。お偉い人が「東北の復旧はほぼ終わった」ような事を言っていたがとんでもないと思った。

翌日は復興に意気を示すような勇壮な「相馬野馬追い」を楽しんで帰路についたが、今後も東北への関心を持ち、支援を続けなければと思った。

放射能重く 残れる日本の

20年後 いかにあるらん

福島の 放射能汚染はそのままに

オリンピックに湧き立つ人ら



松川浦湾を背に全員集合

## ちむぐりさ

「ちむぐりさ」とは沖縄にある言葉。「他人の痛みをわが身のこととして深く寄り添うこと」という意味だそうだ。

石原 園美

OB会の福島ツアーが成功裡に終え何よりでした。私の友人であり、被災者でもある江田清（福島市議 4 期、県議 2 期を腹膜還流透析をしながら議員団長として活躍、8 年前ドクターストップで議員を引退。現在福島生健会会長）の詩を被災者の声として紹介します。

動き出す ベッド抑えてスタッフが 必死に支えし我ら患者を  
いつまでも 続く大揺れベッドにて 恐怖に震え妻の身おもう  
あまたなる 命失せし テレビみる われは命をつなぐ透析  
よくしゃべる 孫は遠くへ「疎開」せり 夢で会えたと妻よろこぶ  
音もなく 新たな年が明けるとも 汚染土埋まりし庭はそのまま



## シリーズ・事業所訪問 . . .

### 「さいわい診療所」

訪問者 前田文代  
松倉徳子

9月25日、訪問をして荒井事務長さんからお話しをお聞きしました。

東京に通勤・通学する埼玉都民が多く、以前の鋳物工場跡地は高層住宅となり、年間1%の割合で人口が増加し、市内の広範に住宅地が広がり街の風景は大きな変容をみせています。

中青木に新築移転して21年目となった現在も、あちこちの手入れも良く行き届き、待合室は一人がけの椅子です。伺ったときは広々とした空間だと感じましたが、健康診断に来所する方と外来患者さんが重なるとごった返すので、職員は大変だなと感じました。



9月から電子カルテを更新し3週間経ちましたが、操作に熟練すればスピードも速くなり、効率化が図れるとの話です。

地域の医療連携では、埼玉協同病院、済生会川口総合病院川口医療センターなどをはじめ専門領域の開業医との連携が進んでいると説明がありました。

1日平均の外来患者さんは98名、在宅管理数は79名です。



家庭医・総合医を育てる診療所として研修医を受け入れ、「地域で医師を育てよう」と奮闘しています。診療体制は午前2診、午後2診、夜間診療は月から金曜日まで毎日、訪問診療も毎日です。また、ケアセンター「かがやき」との連携で在宅支援診療所として地域になくてはならない診療所を目指しています。午後診療に来所中の患者さんにもお話しをお聞きしましたが、家族全員（3世代）が何かあれば受診をしているという声を聞き、家庭医の本道だと感じました。

今は建設委員会を立ち上げ、地域動向や組合員・住民の要望などを分析して、新しい診療所づくりへと夢を拓けています。ネットワーク地区制となり、診療所に任された南部地区Cブロックの組合員と職員の繋がりの中で、職員の育成も考えていくとの事です。診療所を知らせようと組合員と職員32名で「川口・たたら踊り」に参加、来年は南部地区全体で圧倒したいと燃えていました。



今年には埼玉民医連60周年であり、さいわい診療所も12月28日に60周年を迎えます。来年1月には、未来・夢を語る式典にしようと準備委員会を立ち上げ、取り組みが始まりました。新しい診療所は、地域にとってなくてはならない「高齢者にやさしい診療所」を合言葉に、組合員と共に作り上げてほしいと強く思いました。

早いものでさいわい町から移転新築から21年、あのころ職員・組合員で「どんな診療所を作るのか」夢を語り合った学習会や地域訪問が懐かしく思い出された訪問でした。

## 2013年 私の夏

猛暑・集中豪雨・台風・竜巻・特別警報等々、記録づくめの  
大変な夏でしたね。  
みなさんは今年の夏を、どんな風に過ごされたのでしょうか？  
各地にいらしゃる会員さんに伺いました。

### \*愛媛 松山から 和田 美津保

今年の夏は、隣の高知県の四万十市で、日本の最高気温を塗り替え、四国も全国区になりました。毎年、松山市の夏は、水不足が心配されるのですが、今年は都合よく雨が降って、取水制限がされることなく過ごせラッキーでした。

夏は高校のコーラス部のOB会の演奏会があり、1週間前から毎日3時間の練習をするのですが、今年はアカペラを4曲演奏し、スリリングな演奏でした。世代を超えてのコーラスを楽しむ仲間が、1年に1回集まって続けているこの演奏会に復帰して2年目ですが、来年も参加しようと思っています。



**\*長野・ハケ岳山麓から** 芝崎 明

我が家の周辺は標高1300m程で、職場のある諏訪湖周辺や埼玉などとは比べ物にならない涼しさです。今年も、我が家の夏(7月~9月)はどこにも出かけないで、木立の中で森林浴、天然クーラーのもとでゆったりと過ごしています。



早朝のすがすがしさの中での愛犬の散歩、日中の木立の陰での読書、ささやかな野菜畑の収穫、夕方の露天風呂と湯上りの一杯、夜空をおおいつくす満天の星。日常の仕事やわずらわしい出来事を忘れさせるこの夏の休日でした。(近況報告になってしまいました)

先日、西協同で仕事をご一緒した、伊那市在住の伊藤みすずさんから、お電話をいただき、あれから25年もたったことに感慨を覚えました。

**\*埼玉・秩父から** 宮谷 忠

あとわずか70代に仲間入りです。診察券の数が増える一方、新たな課題にも挑戦しようと思うこのごろです。ところで、我が家に意外と小鳥が飛来するのに気づき、鳥の観察を始めてかなり経ちます。家の北側に竹林、針葉樹林と広葉樹林が合わさり、その後に川が流れ、さらに里山が広がっています。鳥にとっての休息地、罫として格好の場所であるらしいのです。



蒿雀

留鳥、渡り鳥など珍しい十数種類ほどは遭遇します。繁殖期の春は賑やかですが、晩秋11月頃から春の3月頃が適期です。尉鷓、日雀、山雀、四十雀、鶺鴒、斑鳩などは木の実の熟す頃やってきます。蒿雀は餌を少しやりましたら毎日来るようになりました。

番一緒に交代で啄みます。鶯は笛鳴きを始める晩秋に地味な姿を観察できます。鶇も交代でやってくることがあります。河原鶇、青啄木鳥、雉、柄長、頬白、山鳥などは通年やってきます。震災後の余震の直前には雉が一声、二声ぎゅっと咆哮するのが気になりました。ガウ群とって、四十雀、小啄木鳥、柄長鳥、目白などが一群でやってくることがあります。どの鳥にも言えることは、営巣から巣立ちまで子育てに専念する姿は、それは感動ものです。



雉

とりとめもない鳥の話でした。

(鳥の名前など難しいですが、辞書で調べてください。きっと楽しくなりますヨ・・・)

**\*宮城・仙台から** 鈴木 則子

猛暑にて汗を拭き拭き、早朝毎日一万歩以上歩くため頑張った日々でした。普段は趣味を生かして踊りの仲間と時々老人ホームを慰問したり、10月には新婦人行事「ステキに長生き」に祝舞「松の緑」を踊る予定なので、時間をみつけて稽古をし、周りの人々に感謝しながら過ごしています。(私は宮城県のため、離れているのでいろいろな行事に参加できず残念です。所沢で仕事仲間として頑張った時代の方々の声をOB会だよりから聞くことができ、とても楽しくニコニコしながら読ませていただいています。)

\*北海道 札幌から 木村 輝一

昨年10月、突然病に倒れ、生死をさまようような経験をしました。現在は車いす生活ですが、週3回リハビリに通っています。

北海道といえども、今年の夏は暑くりハビリもなかなか厳しかったです。 体には十分気をつけましょう。



\*埼玉 川口から 木内 恭子さん

今年の夏も「語り部」の一人として、戦争体験・広島体験を語り継ぐ活動を続けています。 (下記の記事は8月15日毎日新聞に載ったものです。)

68  
年目の証言

川口市 木内恭子さん(77)

その瞬間、突然目のくらむような鋭い光を感じ、そのまま気を失った。どのくらい時間がたつたか分からない。悪苦しくて目を開けると、あんなに明るい朝だったのに、真っ暗だった。そして次第に夜が明けていくように明るくなった。周囲の建物はすべて「ベッコちゃんこ」になっていた。

1945年8月6日午前8時15分、広島市に原爆が投下された時、当時9歳だった木内恭子さん(川口市)は爆心地から約10キロの広島刑務所近くで友達と石礫りをし

# 目くらむような鋭い光

て遊んでいた。覚えていたのは、右側に大きなごぶがいて、右足のくまぶしが腫れていた。一緒に遊んでいた友だちは誰もいなかった。

父は法務省の職員。終戦の約1年半前に広島刑務所に赴任し、刑務所敷地内の宿舎に家族5人で暮らしていた。朝鮮人が多い地域だった。

「アイゴ、アイゴ」。がれきの下からたくさんの人たちがはき出してきただけで、赤黒い体の人たちが歩いてく

## 広島 友だち皆いなくなり

くその流れの中から、刑務所の約20分の間が大きいむくんだ苦しい男の人が「ゆっこ」と言っただけで残って、手をつないで歩いた。他の家族はみんな、その時分からなくなり、命は助かった。囚人1260人も全員無事だった。

翌日から、囚人たちが手分けして刑務所前の川に折り重なって死を授けられた時、うれしんでいる人たちが取寄せると同時にどんな子が

し、焼却場で焼いていた。白い煙がゆるゆると上がっていた。

終戦の翌年、父の実家がある茨城県に移った。高校卒業後に看護士になり、結婚。徳島県若人がどう考えているのか。「私たちには死が短い。若い人たちが私たちの思いを受け継いで、平和を守ろうという思いを伝えてほしい」。

それが、願いだ。

【川畑さおり】

## お知らせコーナー

ぶらり散策

### 「江の島・鎌倉」 紅葉と古寺のんびり旅

日時・・・12月2日（月）北鎌倉駅改札口 10時30分集合

学習会資料

8月26日、幹事会時に岡本泉常務理事を迎え、「医療生協さいたまの方向性と課題」についての学習を行いました。  
講演内容のテープを起こしましたので資料と共にあります。  
ご希望の方は役員までご連絡ください。

みんなで参加

### 「2013 さよなら原発埼玉県民集会」

とき：2013年11月24日（日）10時30分～

会場：北浦和公園（北浦和駅西口からすぐ）

ホームページ

みなさん！ ホームページもご覧ください。

パソコンを立ち上げ、

埼玉民医連退職者の会

検索



気軽に

私の一枚

### 私の散歩道

きれいな花たちも

私の

散歩の仲間です。

小田 政満



気軽に  
私の一枚  
p. 2



威勢のいい掛け声と花笠太鼓の  
勇壮な音色、華やかに彩られた山車を先頭に傘を手にした踊り手たち。壮大・華麗な山形・花笠まつりを楽しみました。

山口 昭子

庭で育てた草花たちが  
かわいい花を見せてくれました。  
『山芍薬・不如帰（赤・白）』  
宮谷 忠



「ど根性彼岸花」みたいに、  
ブナの幹や枝から芽を出している  
のもあってビックリ！ (巾着田)

石丸 乾二